

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1191700077
法人名	有限会社 ふれあいネットワーク
事業所名	グループホーム くすの木
所在地	〒365-0014 埼玉県鴻巣市屈巣2187-1 (電 話) 048-568-2280
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月10日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算	7.26人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,400円		

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低 74 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	埼玉脳神経外科病院、ヘリオス会病院、森山歯科、大宮デンタルクリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、自然に囲まれた静かな環境の中に立地するグループホームである。窓の下には野菜が植えられており、利用者と職員と一緒に収穫するなど楽しんでいる。職員は利用者一人ひとりの個性を大切に、グループホームが利用者にとって自分の家であるように楽しく生活できるよう努め、理念にそった支援のもと家庭的でゆったりとした時間の中で共に暮らしている。また、押しつける支援ではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、利用者の変化に応じ新たに介護計画を作成しながら現状に即した支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。自己評価をすることで、日常の支援に対して「気づき」があり、外部評価の結果を受けて今後の取り組みに活かしていく姿勢である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加により第1回が開催されている。会議ではホームの様子から問題点などが報告され、質問や意見を聞くことで質の確保を図り、日々のケアに取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に家族が参加することで意見を表出する機会を持つほか、来訪時などに職員から利用者の暮らしぶりや介護記録を見せてもらい、意見や要望を伝えることができるようになっている。職員は常に家族の立場に立った配慮を心がけ、意見の反映に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会活動に積極的に参加し協力している。日常生活の中で、買い物や散歩に出かけることであいさつや言葉を交わし、地域に溶け込むように努めている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の住み慣れた環境を考え、家庭的かつ地域との交流を大切に生活することを事業所独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議や日々の申し送り時に理念の確認をしている。業務の中で利用者の残存機能を活かし支援するなど、実践に向けて具体的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所主催の夏祭りに呼びかけ参加してもらったり、自治会活動にも積極的に参加し、地域の人々との交流に努めている。また、随時ホームの見学をする機会を設け、近隣の高齢者の相談等も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行うことで新たな気づき等もあり、ケアを見直す良い機会となっている。外部評価においても管理者と全職員で話し合い、共通理解のもと評価を活かした改善に取り組んでいく意向でいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加を得て開催されており、グループホームの様子や問題点について報告をするともに、質問や意見を聞くことで質の確保を図っている。開設から7か月ということもあり、会議の開催は1回のみにとどまっている。	○	今後、年間計画をたて定期的に運営推進会議を開催することで、さらなるサービスの質の確保に取り組んでいかれることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初から市担当者にはグループホームの運営状況やサービスについて伝え、連携を図っている。また、市の主催する地域密着型事業者の会議には積極的に参加し、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に利用者の暮らしぶりを伝え、日々の生活の様子が分かるように写真を見てもらっている。また、金銭管理については月1回、個々に伝え確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時などに利用者の介護記録や生活の様子を伝えたりすることで、職員に意見等を表出できるように配慮している。また、出された意見等は日々のケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。新しい職員が入る場合も、利用者一人ひとりに声をかけ紹介するなどして対応し、馴染んでもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議等を利用してホーム内で研修を行っている。保健センター研修など外部の研修にも勤務のシフトにより順番に出席できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南部グループホーム協議会に参加し、東松山や川越のグループホームと交流や情報交換の機会を持っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得した上でサービスを利用できるように、家とグループホームを行き来して馴染んでもらってからの入居となっている。入居当初は、家族へ状況報告をし、相談しながらスムーズにサービスの利用ができるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかわりの中で掃除の仕方や作り物を教えてもらっている。職員は利用者との日常の会話の中から教えてもらうことも多く、共に支えあう関係を築いており、職員は利用者に向き合うことを心掛けながら支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が日々の生活の中で利用者の思いや希望、意向を汲み取ることに努め、把握ができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりのケアのあり方については、職員間で送りノートを使い意見交換をして統一を図っている。家族に伝えることがある場合には個別に対応し、意見や要望を聞いた上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時など介護計画の期間に応じて見直しを行っている。本人に変化が生じた場合には、本人、家族と話し合い、意見や要望に応じて見直し、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院、時には墓参りなど、本人、家族の状況や要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、希望に応じ通院の支援も行っている。ホームへは2週間に1回の協力医による往診もあり、急変などの緊急時にも協力医の対応が可能な体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を受け、全職員により終末期に向けたあり方に対応する方針である。但し、主治医が医療処置が必要と判断した場合には医療機関に一任している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないか、ミーティング時に職員で確認し支援に努めている。トイレの入り口はカーテンになっており、使用中と判断できる表示がなく、外から確認できない場合がある。	○	日常生活においてプライバシーを確保するためにも、トイレの使用中であることが外部から見てわかるように表示等工夫することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の朝起きる時間や食事の時間が一人ひとり異なるため、利用者それぞれのペースで過ごしてもらい、職員は希望にそって支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一日の中でも特に楽しい時間であるため、利用者の健康状態を考慮した食形態にしている。下膳等は手伝ってもらい、利用者と職員で一緒に行っている。時には外食を楽しむこともある。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ自由に入浴することができる。入浴を拒否する場合は、タイミングをみて声かけをしたり、日を変えるなど工夫することで入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりができることを把握し、生活歴を活かした洗濯物たたみや洗い物、食器拭き等の役割のある場面で力を発揮してもらっている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外出する機会を多くして、公園に散歩に出かけたり日光浴の支援をしており、外出の際には職員が3名で支援する体制をとっている。そのほか食事や買い物などにも職員の見守りのもと出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、職員の目が届かない時に玄関に鍵をかける場合もある。全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、職員は見守りの方法などを検討して、外出したい利用者には付き添うなど工夫しながら取り組んでいる。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	12月に消防署協力のもと避難訓練を行う予定である。現在は自主点検票で確認している。	○	今後は年間計画をたて定期的な実施が望まれる。また、自治会など地域の方にも協力が得られるよう積極的に働きかけていくことが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録し、全職員が情報を共有している。また、栄養バランスについては定期的に関連のNPO法人の栄養士に確認してもらい、アドバイスをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに椅子やソファが置かれ、不快な音や光がないように配慮された共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらい、自宅にいるように工夫した居室となっているが、季節に応じて居心地良く過ごすための配慮が十分ではない。	○	直接床に布団を敷いて寝ている利用者もいるため、冬場など季節に応じてより居心地良く暮らせるように、本人や家族等に職員から声かけをするなどの配慮が期待される。